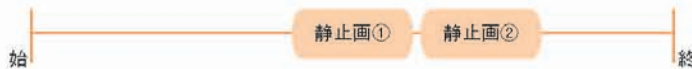


同時進行型



札幌市立幌西小学校
小林 知 広

実践テーマ

実物投影機で児童のノートを大きく映して交流に活かす。

授業の進め方・ICTの活用の仕方

- 〈導入〉 ・教科書の問題を提示し、一人ひとりがどのような方法で計算を考えていくかを選択する。
・今までの計算との違いを明確にし、小数点以下の繰り下がりがあることをはっきりさせる。
- 〈展開〉 ・自分の考えを図や数直線など既習事項を活用し、ノートに書き、自分の考えを、実物投影機を使って説明する。
・電子黒板のキャプチャー機能※を使って、ひとつの考えに次の児童の考えを書き加えていく。
- 〈まとめ〉 一つひとつの考えを板書で整理し、自分にとってどの考え方がわかりやすいのかを理由をつけてノートに書く。

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動	使用する教材 (デジタルコンテンツ等)
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・「1.4-0.6の計算を説明しましょう」と、問題を提示する。問題を読み、既習事項との違いを考える。 ・どんな方法を使って説明できるのかを交流し、自分の方法を選択する。 	
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の説明を、図や数直線を使ってノートに書く。 ⇒机間巡視を行い、考えを具体的に表現させる言葉がけをする。 ・ノートを実物投影機を使い、説明する(静止画①)。 ⇒思考のパターンを板書に整理し、たくさんのアプローチの仕方があることを視覚的に伝える(静止画②)。 	<ul style="list-style-type: none"> ●児童ノート ●キャプチャーされた児童ノート
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・小数点を意識することで、今までと同じ繰り下がりになることを確かめる。 ・たくさんの方法の中から、自分にとって理解しやすいものについて、ノートに理由を書く。 	



多様な方法を板書し既習事項の違いを考える



実物投影機で児童のノートを提示



電子黒板と板書の効果的な活用

児童の反応・効果

- ・電子黒板と板書を組み合わせることで、小数の計算でも繰り下がりの計算の仕方として、0.1を基にすると2位数-1位数の計算に直せることを、児童のノートを使って、共通理解することができた。
- ・実物投影機から電子黒板に提示された児童ノートの画像に、新たな考えを書き加えていくことで、ひとつの考えが深められ、次の課題へとつなげることができた。

活用のポイント

- ・電子黒板と板書を組み合わせることで、思考がより整理される。
- ・「児童のノート」をキャプチャーし、直接書き込むことで電子黒板に児童の考えが整理されていく。
- ・板書は問題を提示し思考のパターンを位置づけることができ、課題に対するアプローチの仕方を明確にし、授業のポイントをよりはっきりさせることができる。

※キャプチャー機能 電子黒板に表示された画面の全面または部分をデジタルデータとして切り取り、電子黒板に取り込むことができる機能。また、取り込んだ画面に手書きをした情報も蓄積し、いつでも呼び出して提示できる。